

あの頃の風景

おくのほそ道 第1回

夢の跡を守り続けるまち 「平泉」

日本交通技術株式会社/設計一部/第二設計課
中村和也 NAKAMURA Kazuya (会誌編集専門委員)



① 中善寺通り入口に現在でも残る芭蕉館(わんこそばのお店)

古代から中世へと時代が移り変わる混沌たる時代、奥州の覇権を掌握した藤原清衡が居館を江刺(現岩手県奥州市江刺区)から平泉の地に移した。以来、約百年にわたり奥州藤原氏の本拠地として繁栄し、史上に名をとどめた。

この地は北上山地と奥羽山脈との間に挟まれた狭隘な盆地で、白河関以北の領域における主要道と北上川が近接して南北に貫く水陸交通の要衝であった。気仙および磐井の産金や糠部の駿馬などの奥六郡の特産品を産出し、北方の海域からの鷲羽やアザラシの皮、東海や能登地方で生産された壺甕類、そして中国・宋からの白磁四耳壺や青白磁の陶磁器類や仏像・経典、東南アジアからの紫檀・赤木・夜光貝などの建築や装飾材などが集積し、北東・東南アジアに及ぶ広範に交易活動が展開されていた。

これらの交易活動により得られた力強い経済的基盤から、奥州藤原氏は「奥十七万騎」とも言われた軍事力を要しつつ、京都の中央政権と一定の距離を保ち、奥州における政治・行政上の拠点築き上げた。また、大陸から伝播した仏教と日本古来の自然崇拜思想と融合した浄土思想が広がった頃で、浄土世界を具現化した建築や庭園のみならず、寺院、武士の霊廟、政庁などを密接に関連させ、それらを取り巻く周辺の自然環境とも一体となった浄土思想を基調とした拠点でもあった。

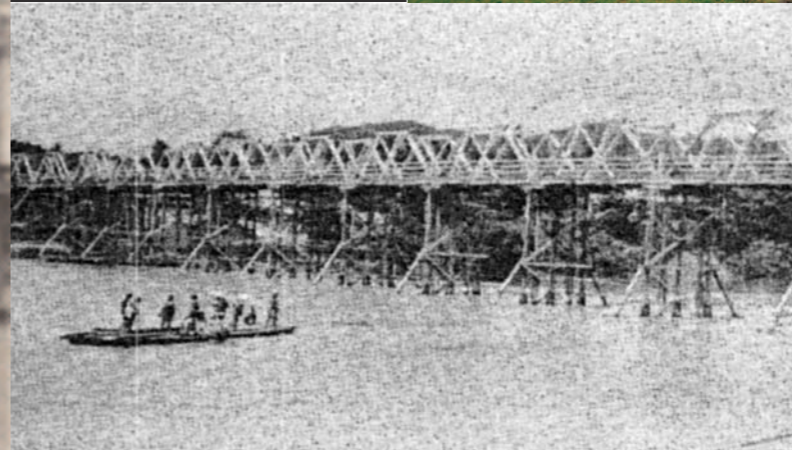
浄土思想の様相を示す代表的な建築物として中尊寺金色堂がある。すべて金色で装飾された阿弥陀堂には、国内外に及ぶ交易により集められた材料が用いられ、蒔絵・螺鈿など日本の漆芸・金工技術による装飾の粋が尽くされている。また、仏堂・園池・自然の山



②(上) 名物トテ馬車と旧平泉駅舎(1961年)
③(右) 自然・歴史文化との調和をコンセプトに2011年11月にリニューアルされた新駅舎



⑥(右) 2001年に完成した5径間連続PC箱桁の高館橋。橋脚には過去の台風時の水位が表示されている
⑦(下) 1934年に完成した木製の初代高館橋。1947年のカスリーン台風により流失した



④(上) 未舗装で歩道も整備されていない1954年の毛越寺通り。バスと広告看板が当時を偲ばせる
⑤(左) 拡幅工により歩道と街路樹が整備され、屋外広告物条例により統一感のある街並みになりつつある



⑧(左) 1965年に建設された覆堂は鉄筋コンクリート造で、金色堂は温度・湿度が調整されたガラスケースに収められている
⑨(下) 金色堂は、1124年に上棟された中尊寺創建当初の姿を今に伝える唯一の建造物。金色堂は覆堂により風雨から守られている



の三者が一体となって浄土の世界を再現された浄土庭園として、毛越寺庭園や無量光院などがあつた。

しかしながら、奥州藤原氏の栄華は一眠りのように短い夢であった。1189年の奥州合戦において源頼朝に屈し、平泉は北方領域における政治・行政上の拠点としての機能を失った。

平泉の寺院は鎌倉幕府や有力封建領主に庇護を受けるも徐々に衰退を余儀なくされ、往時の建物や庭園の多くは遺跡や田地となった。しかし多くの文人墨客が歌枕の地としてこの地を訪れている。なかでも1689年に訪れた松尾芭蕉は、平泉の盛衰を故事との重ね合わせと時間の奥行きによる表現により『おくのほそ道』でみごとに描写した。その代表的一句が『夏草や兵どもが夢の跡』である。

戦後、文化財保護の機運の高まりから、平泉では学

術調査や遺跡の調査・復元整備が進められてきた。近年、景観条例などによりこれらの歴史的資産と共存するまちづくりが進められている。2011年6月、「平泉仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として世界文化遺産に登録され、人類共通の財産としても恒久的に保護することとなった。魅力ある観光資源であるだけに、草木が繁茂する原風景と共に地域住民と守り続けて欲しい。

- <参考文献>
- 1) [中尊寺通りまちなみ整備検討会作業部会]中尊寺通りまちなみ整備検討会作業部会 平成22年3月
 - 2) [わたしたちの平泉]平泉教育委員会 平成18年3月
 - 3) [平泉 - 浄土思想を基調とする文化的景観 - 概要]岩手県生涯学習文化課 2007年3月
 - 4) [平泉町ホームページ](<http://www.town.hirayama.iwate.jp>)
 - 5) [岩手県ホームページ](<http://www.pref.iwate.jp/hp0907/index.html>)

- <取材協力>
- 1) 平泉町教育委員会世界遺産推進室 室長補佐 千葉信胤
 - 2) 平泉町建設水道課 課長補佐 八重樫忠郎